

年の差フレンズ部

〈第6回会議〉

2017年10月21日 第4音楽室



前回の振り返り

前回考えたのは次の3点についてでした。どんな話が出たか、グループ内で2～3分で共有してみてください。

- ①イベントの時に足を止めてもらうためにはどうしたら？
- ②その人と対話するには？
- ③活動に参加してもらうためには？



テーマ①「今後、いつどこで何をするか？」

各チームごとに話し合いの結果を発表してください。

運動チーム



特にまだ決まっていない

食チーム



昨夜打合せをした。がっこに特化したものにするという話だった
→漬物は時間がかかるし、季節感も合わない→これからの季節に合うものを考える→11月20日にセンタースの調理室で実験→ふらっとさんなどとコラボしてみる→パートナー企業との連携も考えると次年度にもつながるのではないか。

音楽チーム



話しあいをした人が本日の会議に全員欠席しているので、どういう話が行われたかが不明。

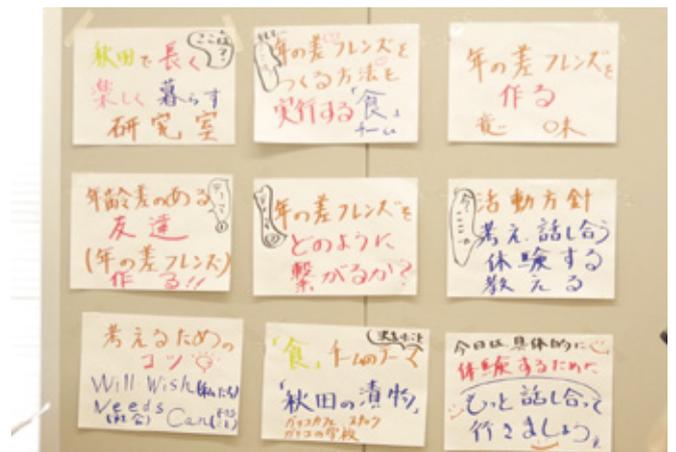


決まっていないチームは、自主的に集まって相談しましょう。

<柴田昭子さんからの提案>

「年の差フレンズ」は何をするのか、どういうコンセプトなのかを説明するのが難しいので、それを毎回繰り返して確認すると決めてはどうでしょうか？

そして、それを紙に書いて張り出すなどして、可視化できるようにすることが大事なのではないのでしょうか？



テーマ②年の差フレンズの単位を開発する

「新しい単位」

世界単位認定協会
/ 扶桑社 2002年

年の差フレンズの活動や効果が目に見えるようにするために、年の差フレンズ部の活動の大きさを表わす**単位**を開発したいと思います。

例) ゴージャスさを表す単位→パイナポー
にくたらしさの単位→ガッツ
はずかしさの単位→麦茶

「年の差フレンズ」はどういうものかを分かるようにPRするため、単位を作りたいと思います。そのための話し合いをします。

「年の差フレンズ」を知っているみなさんに、年の差フレンズの単位づくりに協力してほしいです。

「年の差フレンズあるある」を考えよう！

「年の差フレンズ部に入ったら、こんなことがあった」を出し合う。先輩⇄後輩がインタビューしあって、互いの「あるある」から、単位のヒントを探りました。



質問する人：たけお

答える人：リームちゃん

- ・両親に対してやさしく接することができるようになった。
- 年の差フレンズは人間的な成長につながる。
- ・先輩と接すると先輩の”きりり”とした姿を見て、大人のふるまいができるようになった。

『キリリ』

質問する人：石黒真理子

答える人：おやす

- ・きれいな人に会える、
- ”栄養剤”を飲むようなもの。

『栄養剤』

- ・誰とでも話せるようになり、
- ”刺激”になる。

『シゲキ』

質問する人：佐藤

答える人：林

- ・こういう場に来ると勇気が出る。
- ・年齢が高くなっても”凛”とした姿をもち、後輩に見せられることが大事。

『リンリン』

質問する人：佐々木

答える人：しょうこ

- ・責任もってアドバイスする。

『アドバイス』

FaceBook グループページ
まこちゃんの見解より

”会う”

『ミート』

テーマ③ 今後について話しましょう

今後部活を続けるために、チームを越えて全員でつぎの3つのテーマについて、テーブルを順番に回りながら討議しました。

- A. 部活の続け方
- B. 続けるために自分たちが今からやっておくこと
- C. 続けるために必要なこと

A. 部活の続け方

<続けるために短期的にすること>

- 定期的集まる。定例にしておくことよい。
- ▶ 学生が少ないので集めたい、若いお母さんにも来てほしい。
- ▶ 若いお母さんを子育てから開放する場にしてはどうか。いちばん手っ取り早いのは知り合いを連れてくること。
- 年の差フレンズについて説明しやすいように「年の差フレンズハンドブック」がほしい。
- ▶ 「ハンドブック」は、先輩にとっても後輩にとっても役に立つ内容としたい。
- ▶ 編集に携わりたい人と一緒に編集会議を開催するのはどうか。
- ▶ 編集会議自体を部活化するのがいいのではないか。

<続けるために長期的にすること>

- 資金の確保、お金をもらえるクオリティになるためには何をすればいいのか。
- 事務局の開設。
- ▶ 市役所が担っていた連絡、会議室の確保などは部員事務局が担う。誰がやるのか。65歳～75歳は戦力になる可能性がある。
- NPO化してはどうか。
- ▶ 今までにない、しぼりのない新しい組織の運営の仕方を考えてもいいのではないか。
- ▶ サークル的なほうがいいのかも？
- ★ 部活の続け方は、ゆるいほうがいい。
- ▶ 部員募集とハンドブックづくりを中心に進めるのがいいのでは？

凡例

- やること
- ★ 注意点
- ▶ やることによって目指すこと



B. 続けるためにやっておくこと

- 運営団体をつくりテスト運営する。
- ▶ 今の自由さはいいが、誰もいない可能性もある。
- コアになる運営団体があると分かりやすい。
- ★ ただ強制はダメ。



- 今から作ろう。
- 活動の内容や目標をもっとちゃんと決めておく。
- 今までのアイデアを実現させていく。
- 年の差フレンズ白書にまとめたい。
- 男性の関わり方や、先輩男性をもっと呼び込む。そのためには入ってきたくなる仕掛けを考える。
- ★ 年の差フレンズには期待がある。
認められる感がある、世代間交流ができる。
自分の役割が見つけられることが大事。



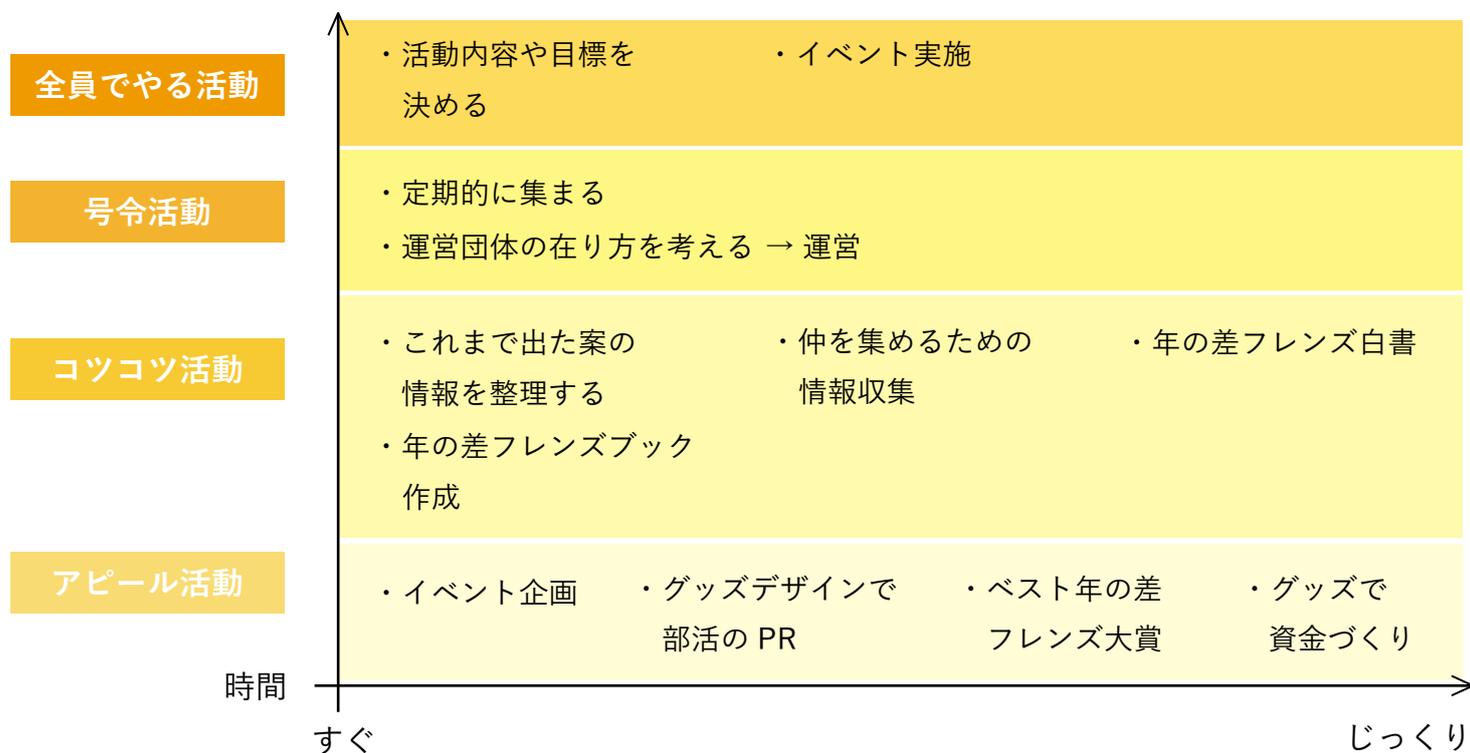
C. 必要なモノことは何か？

- 拠点
- 事務局
- 連絡係
- 定例会
- 資金
- 会費、酒関係、オリジナル商品開発
- ★ (紅茶、コーヒー、農産物の加工品、あて)
- 情報収集
- ▶ 世代別の興味をリサーチする。
- ★ 年の差で参加しやすい方法は「親子」を取り入れること。
小さい子ども連れや、高齢者母と大人娘が来たくなるようなテーマの設定が必要かも。
酒飲み会の色合いがあると、父と息子の年の差パターンを集めやすい。
- ベスト年の差フレンズ賞
受賞イベントを開催し、その時に話題になる賞品を選ぶ。
- ▶ 「ベスト年の差フレンズ賞」がヤフーニュースに載ることを目指す。
- ガッコ酒、ガッコ茶っこ
- ▶ ガッコ酒っこというワードを作り、関連グッズを作って、使う、売る（年の差フレンズグッズ）。
- 集まるためのイベント&資金づくり



今後についてのまとめ

3つの話をまとめると、すぐにやることと時間をかけてやることに整理できました。また、活動のモットーは「ゆるく、無理せず、でもほおっておかない」というイメージになりました。



<最後に - 出野さんから >

今出た、今後の在り方のキーワードに基づいてあと2回のWSを行います。最終回、忘年会をやりますので、参加できるかどうかを知らせてください。
部長など会議をこのあとしますので、参加できる人は残ってください。



第6回のお知らせ (11月19日 (土))

ランチ (12:00 - 13:00)

ワークショップ (13:00 - 15:00)

新規お申し込み

(この活動に参加してみたい方は、どうぞお気軽にご連絡ください！)

参加やお問い合わせは、名前、電話番号、参加人数を以下の連絡先にご連絡ください。

メールの場合：ro-wflg@city.akita.akita.jp

電話の場合：018-888-5666 FAXの場合：018-888-5667